

# 『会社法判例の読み方』

---

(K.K.・20代・会社員)

法律系の資格試験に向けた勉強のために本書を利用しています。

経営者や株主となったことのない人間にとって、なかなかイメージのわからない部分があったり、専門用語が耳慣れないことが多かったりと、条文とは離れたところで勉強につまずくことが多い自分にとって、現場のことを知るために専門書を読む手間を省いてくれる説明が多い本でした。「事案の意味を理解する」という解説のアプローチが、解説の中で前提知識として触れられるだけでなく、事案の概要の長さの中にも表れていたと感じました。個人的には、株価の評価という複雑な計算が絡んでくる部分は、他の判例教材よりも説明の理解度が高かったです。

また、判例の射程も、判例の文言を丁寧に取り上げ、事案との兼ね合いでその意味付けをし、学説の整理や前後のタイミングで出された他の判例を参考にどう位置付けるかという、様々な観点をどの判例でも扱っていて、はしがきに言う「説得的な『読み方』」というものの探求がなされていたと思います。本書の構成は、共著でありながら一貫されており、著者の方々の努力の賜物であると感じました。

『法学教室』2017年11月号(No.446)掲載「Reader's Voice」より